

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道技術課

担当課長名：奥村 康博

事業名	空港・港湾アクセス 一般国道1号 保土ヶ谷橋工区	事業区分	一般国道	事業主体	神奈川県横浜市
起終点	自：神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町 至：神奈川県横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷町	延長	0.8km		
事業概要：一般国道1号は、東京都中央区を起点とし、大阪市に至る実延長約717kmの主要な幹線道路である。そのうち、西区浜松町から戸塚区汲沢町までの約14kmが横浜市管理区間となっており、中でも保土ヶ谷区の保土ヶ谷橋交差点付近から一般国道16号（保土ヶ谷バイパス）狩場ICまでの区間は、慢性的な渋滞が発生しているため、既整備済みの狩場工区（延長約0.8km）に引き続き、保土ヶ谷橋工区（延長約0.8km）を整備することにより、交通流の円滑化を図る。					
H21年度事業化	S21年度都市計画決定	H21年度用地着手	R4年度工事着手		
全体事業費	約40億円	事業進捗率	約6%	供用済延長	— km
計画交通量	28,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) 3.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 29/32億円 事業費：28/31億円 維持管理費：0.89/0.89億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 107/107億円 走行時間短縮便益：101/101億円 走行経費減少便益：4.6/4.6億円 交通事故減少便益：0.2/0.2億円	基準年 令和元年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=2.7~3.9(交通量±10%)		(残事業) 交通量：B/C=2.9~4.3(交通量±10%)			
事業費：B/C=3.1~3.7(事業費±10%)		事業費：B/C=3.4~4.1(事業費±10%)			
事業期間：B/C=3.0~3.7(事業期間±20%)		事業期間：B/C=3.3~4.1(事業期間±20%)			
事業の効果等					
① 交通流の円滑化と沿道環境の改善が期待される。					
② 災害時の緊急輸送路としての効果が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見					
・保土ヶ谷区より、保土ヶ谷橋付近から狩場ICまでの渋滞解消の要望が10年以上継続している。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
事業工区に架かる保土ヶ谷橋については、交差する今井川の改修工事が進んでいることから、施工時期を合わせて架替え・拡幅することで、近隣住民や交通の負荷を軽減でき、災害時の避難路・緊急輸送路としての機能も期待される。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約4%、事業進捗率約6%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
保土ヶ谷橋架替工事に必要な用地の取得を優先的に継続しており、今後は保土ヶ谷橋架替工事の早期完了を目指し、事業を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
・工事費の縮減に努めるとともに、長寿命化の検討を行い、維持管理費の縮減に努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

事業概要図



一般国道1号
(保土ヶ谷橋工区)



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。